

一般質問

三月十九日(月)・二十日(火)・二十一日(水)の三日間にわたり、二十四人の議員が一般質問を行い、市政全般にわたる問題について、市当局の見解を求めました。



道路網の整備

質問 新里・黒保根地区における道路網計画の立案(新里支所)

の視点と実現に向けての考え方はどうなのか。

答弁 道路網計画は、合併後の両地区における現況の問題点を整理し、道路の必要性を明確にした上で今後の道路網の基本的な考え方として作成をした。その実現に向けては、整備効果や整備手法などの検討結果から、短期的、中期的、長期的に取り組むものと分類しているが、早期実現に向けた研究を進めるとともに、関係機関に対してその整備について強く働きかけを行っていきたいと考えている。

質問者

長松岡近吉坂金津岡関今西周周河原中石下山佐青寺大佐	尾島部藤野田金子久部根泉牧藤東井田井田道藤木口山藤	好公信健剛和博純幸西秀雅照米秀文長光竹正貞	雄一郎司八平敬人朗夫三乘彦二始蔵子男生好志宣智雄	(新和会) (くろほね会) (クラブ21) (友和会) (新声クラブ) (新和会) (くろほね会) (日本共産党) (クラブ21) (新和会) (山紫会) (友和会) (クラブ21) (公明クラブ) (クラブ21) (日本共産党) (友和会) (クラブ21) (山紫会) (友和会) (日本共産党) (公明クラブ) (日本共産党) (日本共産党)
---------------------------	---------------------------	-----------------------	--------------------------	--

栗生神社の維持・補修

質問 県重要指定文化財栗生神社本殿、県指定天然記念物「大杉」の維持・補修の考え方はどうなのか。

答弁 文化財の維持・補修の対応については、対象物件を把握する中で、群馬県指定文化財は、基本的には所有者の意向を尊重しながら県の指導を仰ぎ、所有者と桐生市の連携のもと、必要な策を講じることが肝要と考えている。通常の維持管理は、所有者に管理をお願いするほか、職員や県



(栗生神社)

文化財保護指導員により現状確認を行い、住民の協力を仰ぎながら、市民の重要な財産を保護していきたい。

産業の活性化

質問 産業の活性化策と群馬大学の大学院重点化にもなう今後の産学官連携についてどう考えるのか。

答弁 桐生市は、工業団地の開発に取り組み、企業誘致を考えているが、市内には群馬大学という知的財産があり、大学は社会貢献という立場で企業と連携して新しい産業の創出を行っている。群馬大学には、国から多額の施設整備費と研究開発費が投入されており、大学の知的財産をフルに活

用して、様々な形での融合によりオンリーワン企業を育成していくことで、大きな成果が期待できる。(群馬大学工学部)



新駅建設ターミナル構想

質問 新聞折り込みのミニコミ誌に掲載された相生地区新駅建設ターミナル構想は、どのようなもので、構想を議会に示したのか。

答弁 ターミナル構想は、新春座談会の中で、桐生の近未来や先を見据えた口マシを語ったものである。市内の交通体系が互いに交差することによる総合的な話の中で都市構想を図化したもので、具体的な計画ではない。将来、高齢化社会が進む中、車社会から軌道社

会時代への夢を語ったものであり、構想図などは議会の各常任委員会には示していない。

(わたらせ渓谷鐵道下新田駅)



市長の市政執行上の問題点

質問 市長は、選挙公約だった太田市との合併による中核市構想はできず、広域圏合併も失敗したことをどう考えているのか。

答弁 太田市との合併で中核市を実現して、救命救急センターなどを行いたかったが、競艇問題などで実現できなかった。しかし、それに代わるものとして桐生厚生総合病院において小児科や産婦人科などの問題に取り組んでいる。なお、みどり市との合併は、みど

(市議会議場)



り市が行っている競艇事業を引き継ぐことになり、これ以上市民に負担をかけるわけにはいかない。

次世代育成支援対策

質問 次世代育成支援計画と概要はどうか。また新

(新里町内の小学校)



里地区放課後児童クラブについてはどうか。

答弁 延長・休日・病後児の保育や育児相談などの事業を行い、推進委員会や市民に委嘱した協議会で検討し進展を図っている。新里地区放課後児童クラブは一保育園・四幼稚園に委託しているが、希望者増加により四月から小学校における開設を進めている。運営は、区長・民生委員・校長・保護者・議員などで構成する運営委員会を設立し、桐生地区同様に事業を委託して実施していきたい。

幹線道路整備

質問 黒保根町では、国道百二十一号線が大規模な(黒保根町内の国道)



自然災害などで交通止めとなった場合、トラックによる物資輸送もできない状況となり、地域住民生活の不安材料となっている。幹線道路の整備をどのように考えているのか。

答弁 合併後の新地域においては、交通渋滞や災害時において市民生活に影響を与える道路状況にあることは認識している。新年度から着手する都市計画マスタープランなどで位置付け、事業手法を検討すると共に整備促進について関係機関に働きかけていきたい。

中学校統合推進委員会

質問 統合推進委員会の構成は、教育委員会の基準により教育委員会が適切と判断した人を選んで集めたものと考えているかどうか。

答弁 学校統合の問題は、住民や保護者の理解と協力が欠かせないとの判断から、地区住民や保護者との協議により諸課題を解決していただくことを考え、該当地区の関係者を推進委員として委嘱するものとした。行政協力委員やPTA会長、母親委員、育成会長、さら

(市内の中学校)



には地区から推薦いただいた人を委嘱しており、選考については適切であると認識している。

厚生年金ハートピア桐生

質問 桐生市が利用要望をしなかった閉鎖された厚生年金ハートピア桐生につ

いては、その後の経過は、どのようになっているのか

答弁 閉鎖された厚生年金ハートピア桐生の経過について、群馬社会保険事務局へ問い合わせたところ、平成十七年度に本体を除いた宿舎部分は入札により売却したが、平成十八年度の本体の入札は不調に終わっており、今後も本体を売却する方向で努力する。維持

管理面についても、除草や地元の要請により樹木の伐採や八千などの駆除も行ったとのことであった。

(旧ハートピア桐生)



新里町の基盤整備

質問 新里支所前の交差点改良と交差点改良に伴う

(新里支所前交差点)



消防団詰所の移転はどのようになっているのか。

答弁 新里支所前の交差点には右折レーンがなく、朝や夕方には激しい交通渋滞が起きているので、交差点の改良などを群馬県に強く要望していきたい。また、新里支所前の交差点付近の新里方面第一分団詰所は、交差点に信号機があるため消防車両の出入りに支障をきたしており、この交差点の改良によって、分団詰所が支障になるような場合は、適地を選定して移転する方向で検討していきたい。

消防水利の設置

質問 新里町でも都市化が進み、新しい住宅の建設が行われている中で、消防水利の設置が求められているが、一般住宅の建設時の消防水利に至るまでの距離の基準や新設消火栓の設置はどうか。

答弁 消防水利の基準については、都市計画法の開発許可の基準や桐生市土地開発事業者指導要綱の消防施設などの基準により定められており、一般住宅については基準はない。なお、新里



(新里町内の防火水槽)

町では平成十八年度は五基の消火栓を設置したが、今後必要な場所には消火栓を設置していきたい。

堀マラソン大会

質問 今年の堀マラソン大会でハーフマラソンの最後の選手が通過しないうちに交通規制を解除した事例があったが、状況に応じた対応が必要ではないか。

答弁 堀マラソン大会の交通規制は、新川公園から天神町二丁目交差点までの間を午前八時三十分から正午まで車両通行止めを行うほか、天神町二丁目交差点から桐生外語学院交差点までの間を午前十時から十一時まで一方通行としている。



(堀マラソン大会)

今回の事態について警察や関係部局と調整し、状況に応じた対応を行い、より安全対策を講じていきたい。

文化資源の保護・育成

質問 文化財の周知や活用、無形文化財の継承などの支援をどう考えているのか。

答弁 市内には国・県・市の指定重要文化財が一月末現在百二十七件あり、広報きりゅうやホームページに掲載して周知を図るほか、桐生明治館の喫茶室、有鄰館をイベント会場とした活用なども行っている。なお、無形民俗文化財は、賀茂神社の御簀神事など九件あり、これらの継承については、

地元の有志や保存会などに



協力をお願いしており、支援についても、関係機関の協力を仰ぎながら、できる限り努力していきたい。
(賀茂神社御簀神事)

ごみの減量化

質問 一人一日あたりのごみ排出量はどれくらいか。また、生ごみ減量の取り組みとして、捨てるものを最小限にして料理するエコ料理の推進を行ったらどうか。

答弁 平成十八年度の一人一日あたりのごみ排出量を推計すると、千三百三十七グラムであり、前年度より三十四グラム減少している。これは、ごみ減量意識の向上などによるものと認識している。また、生ごみ処理容器などの活用の紹介



(清掃センター)

やエコ調理の推進は、処理容器の利用を推進する上で有効と考えられるので、周知できるよう研究したい。

環境にやさしい未来社会

質問 桐生市は、環境にやさしいバイオディーゼルの(市役所)



燃料車両が二台あるが、その試験運転の結果はどうか。また、廃天ぷら油の収集をどのように考えているのか。

答弁 排出ガスに伴う環境負荷の軽減のため、廃天ぷら油を利用したバイオディーゼル燃料によるショベルローダーとごみ収集車の試行運転を始めた。その結果、運行には支障はなく、しばらく試行運転の継続を考えている。廃天ぷら油の収集については、家庭から排出される実態を把握し、他市の事例などを参考に研究取り組んでいきたい。

介護保険

質問 介護保険について、保険料値上げを抑えるために負担割合の増を求める必要があるのではないかと考えているのか。

また、特別養護老人ホームの施設不足について、どう考えているのか。

答弁 介護保険に関する国への要望については、全国市長会を通じて要望を行っているが、今後も引き続き要望していきたい。また、特別養護老人ホームは現在市内に九か所五百六十床あり、新設法人によるところ

(介護保険課)



の特別養護老人ホーム五十床の建設が進められているので、この施設の入所状況を見守りたいと考えている。

先生と生徒のふれあい

質問 授業以外に先生とふれあう時間や担任の先生

(市内の小学校)



が教室にいられる時間は、確保されているのか。

答弁 授業以外に教職員がゆとりを持って子供とふれあう時間の確保は、信頼関係づくりやいじめ問題などの対応に大切なことと考えている。しかし、県教育委員会の調査では、教員の九十七パーセントが子供とふれあう余裕がなくなってきたというなど多忙感を感じており、市教育委員会や各学校でも様々な改善策に努めている。今後もふれあいの時間を十分確保できるように、研究していきたい。

イノシシ問題

質問 長年提案してきて心残りとなっているイノシシ問題について、どのように考えているのか。

答弁 桐生市の活性化のために「イノシシ牧場の建設及び肉の活用」という提案については、「わざわざを転じて福となす」ということわざのとおり、その趣旨は良く理解できるものであり、捕獲状況を見れば、イノシシの肉を食材として提供することは、十分可能な量と考えられる。今後も、

(捕獲したイノシシ)



観光目的のイノシシ牧場の建設を含めて、それらの可能性を研究していきたいと考えている。

環境問題

質問 新里北小学校周辺の産業廃棄物中間処理施設

(新里支所)



からの有害物質排出の測定はどうなっているのか。

答弁 廃棄物焼却炉などの特定施設を使用する事業者は、年一回環境検査を行う義務があり、群馬県に報告している。それによると新里町高泉地区の産廃中間処理施設は、排出基準以下となっている。また、新里町北小学校周辺の、においの苦情を受けて、現地調査を行ったが、発生源の特定はできなかった。なお、事業者への調査・指導は県が法律に基づき実施している状況である。

あーとほーる銚座

質問 平成十二年に完成した本町四丁目あーとほー

る銚座は、現在閉館状態と

のことであるが、この銚座の運営支援についてどう考えているのか。

答弁 あーとほーる銚座は、特定商業集積整備事業により建設に係る費用のうち、桐生市の補助約四十二パーセントのほか、国や群馬県の補助により本町四丁目商店街振興組合が建設した。今日に至るまで多目的イベント施設として活用し

ているが、その運営が大変であることから、引き続き運営支援を検討していきたい。

(あーとほーる銚座)



人口減の要因と対策

質問 人口が減ることは活力がなくなり、財政も悪化し、住民施策も十分できず、そして人口が減るといふ悪循環となるが、人口減に対する現状認識とその対策はどうなっているのか。

答弁 人口減の要因と対策を探る中で、旧桐生市では可住地面積が少なく、近隣自治体との地価の違いなどが、丘陵地開発の必要性などの対策に取り組んできた。人口問題は最重要課題であり、良好な宅地・

(市役所)



住宅の供給促進に努め、既存企業の育成、ベンチャー支援などによる産業創出や企業誘致に努めていきたい。

非常勤講師の配置

質問 生徒数の少ない、いわゆるクラス数の少ない

(市内の中学校)



中学校における非常勤講師の実態についてはどうなっているのか。

答弁 小・中・養護学校に配置される教員数は、学級数によって決まっており、小規模校では、全教科の教員を配置することが難しく、桐生市では、平成十八年度は十四校中七校の中学校に、延べ十七人の非常勤講師を配置し、平成十九年度についても、免許外の担当教員ができるだけ出ないように十四校中八校に、延べ二十人の非常勤講師の配置を予定している。

住民サービス

質問 旧黒保根村のとき住民サービスとして、行っていた集団検診時の送迎は、リハビリ事業での送迎はどうなっているのか。

答弁 地域にあった住民サービスとして、交通手段のない地域の高齢者などに対しては、関係部署と調整し、サービス低下させないよう対処していきたいと考えている。また、リハビリ事業は、平成十九年度から老人休養センターにおいて機能訓練などを行うことが



(黒保根支所)

ら、老人休養センターの増客対策と合わせて、今までと同様に送迎を行っていき

請願・陳情の審査結果

この定例会では、請願 4 件の審査を行い、閉会中の継続審査となりました。また、陳情 1 件の審査も行い、趣旨採択となりました。

◎閉会中の継続審査となった請願

付託委員会	受理番号	件名
総務委員会	第23号	おりひめバスの無料バス廃止中止と利用料金の値上げ反対を求める請願
	第26号	家庭ごみの有料化の中止を求める請願
教育民生委員会	第27号	出資法の上限金利の引き下げを求める請願
	第31号	全額国庫負担の「最低保障年金制度」創設を政府に求める請願

◎趣旨採択となった陳情

受理番号第 9 号……トンネルじん肺根絶を国に求めることの陳情

歴史と伝統

質問 桐生の歴史として、徳川時代には、直訴して桐生織物を守り、国立歴史民族博物館の研究第九十五号では桐生新町の特集があり、桐生市は、この歴史と伝統を引き継いでの市政執行にあたっていくのか。

答弁 桐生市の織物産業の繁栄を今に伝えるノコギリ屋根、土蔵づくりの店舗など近代化遺産の宝庫となっている歴史と伝統の息づいたまちに生まれ住んで喜びを感じるとともに、先人



(市民憲章)

が築きあげてきた歴史と伝統を受け継ぎながら、さらなる発展を願いながら市政執行に努めていきたい。

● 主な議案 ●

桐生市副市長定数条例案

原案可決

概要

地方自治法の改正に伴い助役制度が廃止され、副市長制度が創設されることに伴い、副市長の定数を一人に定めるもの。

施行日

平成十九年四月一日

桐生市職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正する条例案

原案可決

概要

国家公務員の勤務時間制度において、休息時間が廃止されたことを受け、桐生市においても休息時間を廃止するもの。これにより、正午から十五分間あった休息時間の廃止となる。また、平成十八年四月一

日より導入された早出遅出勤務についての範囲を拡大するとともに、併せて所要の条文整備を行うもの。

施行日

平成十九年四月一日

桐生市廃棄物の処理及び清掃に関する条例の一部を改正する条例案

原案可決

施行日

平成十九年七月一日

概要

ごみ集積所に排出された資源物の持ち去りを防止するため、当該集積所の所有権に関する規定を追加するもの。市が指定するごみ集積所に排出された一般廃棄物のうち、再資源することを目的として分別収集する資源物の所有権は市に帰属するものとする。